



かっこいい主役に変身！

先日の運動会は多くの保護者の方、地域の方に御参観いただきありがとうございました。また、約2週間の特別日課中も、各御家庭で子供たちの体調管理や持ち物等について御配慮いただきありがとうございました。

今年の運動会のスローガンは「かっこいい主役に変身！絆を力に笑顔あふれる運動会」でした。運動会当日の子供たちの姿は「主役」になっていたでしょうか？全校の子供たちが、得手不得手もある中で全力で競技をし、「主役」になるために多くの積み重ねをしてきました。南アルプス市出身の内藤多仲博士の残した言葉に、「積み重ね 積みかさねても またつみかさね」という言葉があります。これは「偉大な成果や強固な人生は、日々の地道な努力や小さな工夫を、飽くことなく愚直に積み重ねていくことでしか築けない」という意味が込められています。また、漢字から最後はひらがなで表現することで、「一步一步は小さく、時には地味で辛い努力であっても、それをやり続けることで、やがて大きな花が開き、揺るぎない土台になる」という、優しくも力強い人生の教訓が詰まった言葉になっています。今回の子供たちの取り組みもまさに「積み重ね」の結果です。ある日突然、主役に変身できるわけではありません。式の時の話の聞き方、服装の整え方、競争競技、表現運動への取り組み方 等、一つ一つを積み重ねる事で今回全員が「主役」に変身できたのではないのでしょうか。また、御家族の皆様にはその変身を支えていただきました。ありがとうございました。今後も、一つ一つの学校教育の取り組みを大切にさらに積み重ね、大きな成長につなげていきます。

「心の力」を育てる

さて、前号で小中一貫校として取り組んでいる「靴そろえ」についてお伝えしましたが、今回は「無言清掃」についてお伝えさせていただきます。「掃除中におしゃべりを禁止するなんて、少し厳しすぎるのでは？」と感じられる方もいらっしゃるかもしれません。しかし、この取り組みには、学校生活だけでなく、子供たちが将来社会に出てからも役立つ「心の力」を育てる大切な意義があります。

私たちが無言清掃を通じて、子供たちに身につけてほしいと考えている力は主に3つあります。

1 「気づく力」を育てる

おしゃべりをやめて手元に集中すると、「ここにまだホコリが残っている」「机の脚の裏にゴミがたまっている」といった、普段は見過ごしてしまう小さな汚れに気づくようになります。この「小さな変化や問題に自ら気づく力」は、学習や日常生活、将来の仕事にもつながる大切な能力です。

2 「心をつなぐ・協調性」を育てる

言葉を使わないからこそ、「友達が今どこを掃いているか」「自分が次にどこを拭けばスムーズ

か」と、周囲の動きをよく見るようになります。相手の状況を察し、声に出さなくても息を合わせて協力し合う、一歩進んだチームワーク（ノンバーバル・コミュニケーション）が養われます。

3 「自分の心と向き合う（自律心）」を育てる

誰かに言われてやるのではなく、静寂の中で自分の担当場所を黙々と美しくしていくことで、やり遂げた時の充実感や達成感が生まれます。また、心を落ち着かせて一つの作業に没頭する時間は、現代の忙しい子供たちにとって、心をリセットする貴重なマインドフルネス（精神安定）の時間にもなっています。

決して「子供たちを理不尽に縛るためのルール」ではありません。自分たちの手で環境を整え、同時に自分の心も磨く時間として、指導を行っております。

御家庭でも、「学校の掃除、静かに集中して頑張っているみたいだね」と、子供たちの地道な頑張りを温かく励ましていただけますと幸いです。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

